

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の卒業後をみすえ、「チャレンジ・つながる・自立」を合言葉に、生徒の豊かな個性を活かしつつ、すべての教育活動を生徒の自立への力の育成と支援者の拡大につなぐ学校づくりをめざす。

併せて、生徒一人ひとりが、安全に、また、安心して学ぶことができる学校づくり、地域の人々や関係機関等から信頼される学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程及び授業内容等の充実を図る。

(1) 生徒の多様性と社会状況の変化等をふまえ、新教育課程について検証し、必要な改善を行う。

平成 26 年度の新教育課程の検証を行うとともに、平成 27 年度教育課程の充実に向けて、作業学習の見直しなど必要な改善を行う。併せて、研究授業の拡大などを通じて、教職員が主体的に授業改善に取り組むための環境を整える。

* 研究授業、公開授業等を活性化し、授業内容の改善及び充実を図る。

(2) 職場実習・校内実習の機会拡大を通じて、生徒のチャレンジ意欲を育む。

コース間の相互連携を強化し、職場実習・校内実習等の機会を拡大し、生徒のチャレンジ意欲を高めるとともに、支援者の拡大につなげる。

* 生徒の状況をふまえつつ、校内、校外実習の多様化及び体験機会を拡大する。

* 府立大学との連携の更なる充実など、社会自立コース等における校外の実習の機会を拡大する。

(3) 個別の教育支援計画、指導計画の充実

生徒の多様性をふまえ、長期目標、短期目標設定を明確にするとともに、保護者参画の更なる充実を図る。

* 個別の教育支援計画と個別の指導計画の役割を明確にし、授業内容の充実を図る。

* 一貫した支援のツールとなるよう中学校等や卒業後の進路先との連携を図り、生徒、保護者の活用を促進する。

2 支援教育力の向上

(1) 思春期における課題への支援、健康教育の充実を図る。

専門家との連携による教職員による事例検討及び生徒、保護者を対象とした教育相談の充実を図る。また、健康保持の基礎ともなる口と歯の健康教育の更なる充実を図る。

(2) 部活動、生徒（生活）指導の充実を図り、生徒の自己肯定感を育成する。

部活動をはじめ、課外活動の充実を図り、生徒の主体性、社会性、忍耐力等を育む。また、生徒の規範意識及び集団生活の基礎となる力を育成するため、自己肯定感の育成を柱に生徒（生活）指導の充実を図る。

(3) センター的機能の役割をしっかりと果たすとともに地域連携の充実に努める。

これまでの事例検討や研究成果を活かし、思春期における性に関する指導、アンガーマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング（SST）等での分野での支援の充実を図る。また、高等部単独校として、生徒の卒業後の自立をみすえ、関係機関との協働による取組を強化し、その成果を発信する。併せて、とりわけ比較的経験年数の少ない教職員の支援教育力を高める取組を進める。

3 生徒が安全で安心して学校生活をおくることができる学校づくりを進める。

(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒の人権を尊重する学校づくりを進める。

* 学校協議会員との協働による教職員研修の充実等に取り組む。

(2) 防災計画の見直し（改善）を柱に、防災教育の計画的推進や避難訓練の改善を図るとともに、教職員の危機管理意識の向上を図る。また、地震、火災等の災害に備え、保護者との連携のもと、通学時の安全確保及び必要な備蓄品等の整備を行う。

* P T A活動との連動を柱に進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>□対 象 ⇒生徒、保護者、教職員</p> <p>□回収率 ⇒生徒：94.9%、保護者：63.8%、教職員：91.4%</p> <p>【前年度⇒生徒：91.5%、保護者：61.2%、教職員：91.6%】</p> <p>□結果・分析等</p> <p>【回収率】</p> <p>昨年度と比較すると、生徒は3.4%増加、保護者は2.4増加、教職員は0.2%減少と、ほぼ横ばいの状態である。生徒・教職員に関しては90%を超えほぼ全員提出している。次年度はさらに保護者からの回収率が増加するように、実施時期や依頼方法等を工夫したい。また、教職員の提出率を100%に近づけたい。</p> <p>【学校生活全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の達成度（よくあてはまる＋ややあてはまる）では、保護者・教職員とも0.6%増加、生徒は1.0%の減少であるが、生徒の障がいの状況の変化により未記入率が5%増加したことを加味すれば、ほぼ横ばいである。 ・保護者の満足度（よくあてはまる＋ややあてはまる）においては、学年別では学年が上がるほど上がっている。特に（よくあてはまる）の項目が5.2%上がっており、学年が進行するに従って成果を理解いただいていると思われる。 ・「学校が楽しい」と感じている生徒は90.6%、保護者は94.3%で昨年度（83%、93%）をさらに上回った。 ・達成度（よくあてはまる＋ややあてはまる）の1位は、生徒：授業でコンピュータをうまく使えるように教えてくれる（92.3%）、保護者：学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている（100%）、教職員：生活（生徒）指導において、家庭との連携ができて（97.3%）であった。その他、生徒は授業に関する事、保護者は行事予定等の適切な通知など学校とのつながりに関する事、教職員は個別の教育支援計画の開示に関する事や指導方法の工夫に関する事が上位を占めている。 ・達成度が低い部分では、生徒・保護者ともに学校のホームページを見ることがある（よく見る）が第1位となっている。生徒は、見ることがあると答えた生徒は昨年より11%増えているが、保護者は14%減少している。ブログは1月末の時点で140回程度更新し日常の学校生活の様子等を掲載し改善の努力はしているが、内容等について引き続き工夫していくとともに、保護者にはホームページ以外の発信方法も考えていく必要性を感じている。また、教職員の方は、校外の研修に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられているという項目にあてはまらないという回答が多く、次年度は計画的に実施していきたい。 <p>【授業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業が分かりやすい」と感じている生徒は約90.5%に対し、「授業内容が工夫され分かりやすい」と感じている保護者は約86.4%と昨年度よりさらに改善された。「生徒の実態をふまえ、授業内容や方法を工夫している」と答えた教員は約95%で、昨年度よりも3%増加している。また、「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」という項目に対する生徒の満足度も9%増加した。今後とも授業改善に継続的に取り組んでいきたい。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」という項目にわからないと答えた保護者が10%増加した。学校教育方針等も含め、様々な情報をホームページ以外の手段でも伝える努力をしたいと考えている。 ・「学校は災害時の対応を保護者に知らせている」89.8%「学校は災害時、生徒の安全を確保するよう体制を整えている」88.6%「学校教育のあらゆる場を通じて防災教育を行っている」91.9%という項目の満足度が特に上昇した。今年度首席を中心にPTAに委員会を設けたり、教員チームを立ち上げて活動を行ってきた成果であると考えている。 	<p>□第1回（平成26年7月22日開催）</p> <p>《個別の教育支援計画について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会などで活用の引き継ぎの話をするのがよい。中学校への働きかけが必要。入学相談のときに個別に聞いてみるなど対応はどうか。保護者からも伝えたいことがあるはずである。 <p>《就労支援について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18歳というのは未熟。現実とのギャップを3年間でいかに埋めていくか。企業はどんなところで、どれだけ学校生活と変化があるのか、求められるのはどんなものか教員がイメージをしっかりと持つことが大事。 ・泉北の進路指導はすごい。保護者には相談などの対応をしますよという安心感を与えつつ、子どもには厳しさを求める。会社にも、対応する社会資源があるから大丈夫という発信をしている。 ・基本的な力（挨拶・返事・報告・作業能力・指示理解と行動・困ったときの行動など）を本人と支援者が知るべきである。 ・進路のめざすところに定着がある。働き続けるために必要な力を学校でつけさせてほしい。 <p>《性に関する教育について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライベートゾーンは守らないといけないということが理解できているか、入浴は一人でどのぐらいできるか、できないところはだれがどう支援するかという細かいところ一つひとつ明らかにしていくことが大切。 ・自分を大切にしていくことを知り、そのように振る舞えることが大事。今後社会でよりよく生きていくための行動の基本。 ・相手がいいよと言うとすべてOKととってしまうなどコミュニケーションでもいろいろな問題がある。プライベートゾーンは絶対守らないといけないものと繰り返し言うていくことが必要。 ・思春期の問題について、犯罪にまきこまれないよう家庭と連携して学習をすすめてほしい。 ・薬物についても指導が必要。障がいのある生徒は自尊心、自己肯定感を持ちにくい。それらを高める教育をしてほしい。認められる感情を育ててほしい。 ・一人ひとりを守っていく姿勢が必要。今後とも指導の中身の工夫を行ってほしい。 <p>《防災に関する取り組みについて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような時に保護者が迎えに行けばよいか、自力通学のときどうするかなどの課題がある。保護者の意識づけをしていくべき。 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携しつつ、センター的役割を発揮してほしい。 <p>□第2回（平成26年11月4日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労率25%以上という評価指標は良いものかどうか。働き続けるためにも就労率については、卒業時の数字だけになってはいけなく考える。 ・人権について、職員が互いに言い合える関係づくり、研修の機会をもって、風土をつくるのが大切だ。 ・職員研修の参加率の向上については、業務が増えていることを考えると教職員の充実感に結びつかないのではないかと。教員にはいろんな機会を提供することが大切と思う。教員の専門性の向上については、地域支援支援の場を活用するのもよいのではないかと。初任者とともに学んでいくことが専門性の向上につながる。 ・授業については、視覚支援をもう少し充実する必要がある。作業学習のように、授業の流れを提示することが大切。参観日の授業内容については、扉のところに授業略案や授業のねらいを掲示することによって参観にこられた保護者の、授業に対する理解が深まる。 ・作業所でも同じだが、生徒がどこで被災したかを把握することが大切。自治会や地域の窓口と連携できているか。地域でも、年配の方、障がいのある方への配慮などについて、まだまだ議論はたりていない。これまでの災害記録や対策を参考に、泉北高等支援学校独自の対策を作っていただきたい。 ・福祉施設は福祉避難所となっているところが多い。学校で対策本部を作るとき、校長がいなくても想定して、校内で対応できるかシュミレーションするべき。それぞれの取り組みをどのセクションが行なうか明確にする。分析、集約をだれがするか明確にすべき。 <p>□第3回（平成27年1月27日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の取り組みが学校教育自己診断の結果に表れている、専門性を高める取り組みや特に防災の取り組みがきちとなされており、生徒・保護者・教職員の頑張りがよくわかった。 ・90%以上の生徒が「学校は楽しい」「先生はよくわかるように指導してくれる」と答えているのは子供中心、子供の視点で教育している結果になったのでは。 ・道徳の分野で自己達成感、社会規範、情報モラル、障がい者自身の人権教育など、本来道徳や総合的な学習の時間にすべき内容は、それぞれの教科・領域の中に入れておさえていく形でやられればよいのでは。保護者へはその内容と領域の中で行うことを伝えること。 ・「他の人の気持ちを考えたり、自分を大切にすることを教えてくれる」「先生はほかの子に知られたくないことは言わない」「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」などは教師の人権意識を映し出す自己診断でも大事な項目である。 ・支援学校の特色は先生方がチームでうまく生徒の短所長所を見極めて指導することで、先生方の連携がうまくいかないと指導がバラバラになる、先生方同士のコミュニケーションは重要である。福祉施設の現場では日々を振り返るコミュニケーションの時間がある。 ・人数が減っていく中で、空き教室は泉北高等支援学校の特色を出した取り組みに利用してはどうか。

府立泉北高等支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
コース制の更なる充実	<p>(1) 生徒の多様性と生徒、保護者のニーズに合致した教育課程に向けた継続的な改善に取り組むため、新教育課程全般の検証及び改善を行う。</p> <p>ア 新教育課程の検証をふまえ、更なる充実を図る。</p> <p>イ 研究授業の充実を図るため、組織的に取り組む体制を整える。</p> <p>(2) 生徒の自立をみすえ、職場実習機会をはじめとする校外での実習内容の多様化と機会の拡大を図り、生徒のチャレンジ意欲を向上する</p> <p>ア 関係機関との連携による校外実習の多様化及び対象生徒の拡大</p> <p>イ 校内実習の内容充実及び機会を拡大する。</p> <p>ウ 生徒の希望の進路実現に向けて、進路指導の充実に努める。</p> <p>(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実を柱に、授業を充実する。</p> <p>ア ICTの活用等による、個別の教育支援計画等作成</p> <p>イ 中学校等との連携を強化するとともに、保護者との連携により、卒業後の進路先への円滑な引き継ぎを実現する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教育課程検討委員会、教科会等において、平成26年度の教育課程全般の検証を行い、27年度教育課程の必要な改善を行う。</p> <p>イ 新教育課程における授業充実にみすえ、研究授業等を通じて授業改善に取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア 福祉事業所及び企業に加えて、関係機関との更なる連携を図り、職場実習の多様化を実現する。</p> <p>イ 生活自立コース、社会自立コース生徒の校内、校外の実習機会を拡大し、体験を通じた社会性や自主性を育む。</p> <p>ウ 生徒の希望する進路の実現に向けて、情報提供及び進路相談の充実に努める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 個別の教育支援計画と個別の指導計画の役割の明確化を図り、授業充実の観点から評価との連動を強化する。</p> <p>イ 保護者が個別の教育支援計画を十分に活用されるよう、しっかりと内容を引き継げるよう体制を整える。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 平成27年度教育課程において、基礎学習、作業学習等の見直し及び改善を行う。</p> <p>イ 研究授業、公開授業の拡大を図る(前年度比 30%増)</p> <p>(2)</p> <p>ア 府立大学、泉ヶ丘駅前空き店舗等の公的施設等における実習の充実を図る(実習日数を前年度比 20%増)。</p> <p>イ 生活自立コース及び社会自立コースの生徒の一人あたりの見学及び体験日数を増加する(前年度比 15%増)。</p> <p>ウ 実習等の充実を通じて、卒業後の進路について、生徒の状況をふまえてつつも、在宅となる生徒を0%とし、就労率を可能な限り向上する(就労率 25%以上)。</p> <p>(3)</p> <p>ア 個別の教育支援計画と個別の指導計画の様式の見直しを行うなど、生徒・保護者ニーズを明確に反映する。</p> <p>イ 中学校等との連携を強化し、入学後もリーディングスタッフ間による事例検討会等の機会を拡大する(前年度比 20%増)。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 作業学習の指導内容について取り組みの成果を年度末に発表。(○)新教科については、次年度具体的にPTを立ち上げ検討予定。</p> <p>イ 公開授業は期間を2倍にした。初任者の研究授業には外部から助言者を招き授業改善に取り組んだ。(◎)引き続き専門家を招聘し、授業力向上に努めたい。</p> <p>(2)</p> <p>ア 府立大学羽曳野キャンパス以外に中百舌鳥キャンパスを開拓。次年度から実習を行う。総実習日数については33%増加した。(○)</p> <p>イ 社会自立コースの生徒のコミュニケーションの場として成美高校との共同学習の場を設け、次年度からの実施に向けて具体的に取組が進んでいる。今年度、見学及び体験日数は増加した。(◎)</p> <p>ウ 在宅となる生徒は 2%。3月末時点で内定10人(18.5%)。(△)次年度も引き続き、納得でき長続きできる就労への支援に取り組む。</p> <p>(3)</p> <p>ア 個別の指導計画については通知表との共通化を図り、統合ICTに載せ様式を整えた。(○)</p> <p>イ 個別の教育支援計画について中学校・中学部からの引き継ぎがしっかりできるように取り組んでいるところ。本校が地域支援推進校を担うことで堺市との関係が深まった。(○)次年度も引き続き推進校を担い、地域との連携に努めたい。また、個別の教育支援計画のより一層の活用にも努めていきたい。</p>
支援教育力の充実	<p>(1) 思春期の生徒への支援の充実を図るため、専門家の活用及び健康教育の充実を図る。</p> <p>ア 専門家との連携による事例検討、教育相談の充実し、ノウハウの蓄積を図る。</p> <p>イ 給食の民間委託をふまえ、生徒・保護者にとって、安全でおいしい給食を提供できるよう努める。</p> <p>(2) 部活動、生徒(生活)指導等の充実</p> <p>ア 部活動をはじめとする課外活動の内容充実と活動期間の増などに取り組む。</p> <p>イ 自己肯定感の育成を柱に、生徒(生活)指導の充実</p> <p>(3) センター的役割の発揮及び地域連携の充実を図る。</p> <p>ア 生徒の思春期におけるさまざまな課題についての指導・助言の充実を図る。</p> <p>イ 研究成果を冊子やホームページ等で発信するなど、発信方法の充実を図る。</p> <p>ウ 比較的経験の少ない教職員の支援教育力の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア 専門家との連携による事例検討や職員研修を充実する。</p> <p>イ 給食委託をふまえて、引き続き「かみかみ」給食の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 活動期間等を拡大するとともに、既存の部活動の充実(参加部員の割合の増及び活動日の拡充等)を図る。</p> <p>イ 生徒手帳の活用等を通じて生徒の誇りや規範意識を醸成するとともに、HR等を活用し、非常時や災害時の対応等を指導する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 高等学校サポート校等との連携をすすめて、高等学校を重点的に支援する。併せて、上神谷支援をはじめとする中学校等との連携を強化する。</p> <p>イ 性に関する指導、アンガーマネジメント等の実践的研究を継続、発展し、冊子やホームページ等を活用し、研究成果を広く発信する。</p> <p>ウ 比較的経験の少ない教職員への校内研修を充実するとともにOJTの取組を強化する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 思春期におけるさまざまな課題をふまえ、事例検討の各学期開催の定例化及び専門家との連携による職員研修の機会を拡大する(前年度比 20%増)。</p> <p>イ 栄養教諭による「かみかみ給食」メニューと歯みがき指導の連動を強化し、栄養教諭によるHR等における歯の健康に係る指導を計画的に実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 夏季休業期間、早朝等における練習の充実など、活動日を拡大(前年度比 20%増)。</p> <p>イ 学期当初を中心に、「生徒手帳」を活用した授業を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア 高校及び中学校等への支援の機会を拡大(前年度比 20%増)。</p> <p>イ これまでの共同研究を継続し、研修会や本校ホームページ等において、その成果(授業内容、教材等)を発信する。</p> <p>ウ 研究授業、公開授業に比較的経験年数の少ない(5年未満)教職員の参加率を倍増する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 事例検討会の学期間開催は定例化している。専門家を招聘しての職員研修の機会は前年度比 20%以上。(◎)次年度も専門家との連携により支援教育力の向上に努めたい。</p> <p>イ どちらも計画的に実施している。歯の衛生については教育委員会賞を受賞。(○)次年度も保健活動と連携し、歯の健康や食育に力を入れて取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア 活動日は拡大した。(前年度比 20%以上)(◎)引き続き部活動の充実に取り組む。</p> <p>イ 学年・全体集会の場で指導した。始業式等の機会に校長からは生徒に講話を行った。(△)</p> <p>(3)</p> <p>ア 本校が地域支援推進校を担うことで堺市中学校との関係は深まった。高校はこれからの課題。(○)</p> <p>イ 継続し発信している。現在新冊子を作成中。(◎)</p> <p>ウ 公開授業は例年どおりの参加率であったが、授業をビデオに撮って、見ていただく機会を設けた学年もある。初任者の研究授業には参加ができていた。(○)</p>
安全で安心な学校づくり	<p>(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができる学校づくりを進める。</p> <p>ア 教職員が生徒一人ひとりの人権を尊重する態度を養うことができるよう研修機会等の充実を図る。</p> <p>イ 学校協議会との連携により本校の安全で安心な学校づくりを進める体制を整える。</p> <p>(2) 災害時等における生徒の安全確保の取組を強化する</p> <p>ア 訓練における事前学習の強化</p> <p>イ 災害時に備えて、必要物品を備蓄</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教職員の生徒の人権を尊重する態度を養うため、常に教職員間で相互評価を行う機会を設ける。</p> <p>イ 学校協議会委員の参画により、人権尊重(いじめ、体罰など)をテーマとした職員研修を開催。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒の災害、不審者侵入等に対する知識を高め、危機対応力をつけるため、防災学習等を系統的に実施。</p> <p>イ PTA活動との連携による防災教育の充実を図る。</p> <p>ウ 大規模災害に備えた必要物品の備蓄を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学年会、教科会等で生徒の人権を尊重する観点での相互評価の機会を常時設ける。</p> <p>イ 学校協議会委員が参画する職員研修等を開催する(2回程度)。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各学期に、防災等をテーマとした授業を系統的に実施。</p> <p>イ PTA活動等との連携による防災教育(訓練)を実施。</p> <p>ウ 防災士と連携し、備蓄品等(水、食料、簡易トイレ等)の防災教育での活用を含めた充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 意識はして、進言を受けることがあるが、同僚として指摘し合える関係性を引き続きめざしていきたい。(△)</p> <p>イ ご協力を得て、開催することができた。卒業後のことや、家庭環境のことなど幅広い視点で子どもに人権について考えることができた。(◎)これからもご協力をお願いしたい。</p> <p>(2)</p> <p>ア 授業は実施しているが、系統性はこれからの課題。(○)</p> <p>イ 防災計画、研修は実施したが訓練は今後の課題。(○)</p> <p>ウ 防災士を招いて、PTA研修を実施し、成果を生かした。堺市から備蓄倉庫も設置されることになった。(◎)</p>